



福祉と住環境を考える

ふくてっく

2013年12月  
第85号

特定非営利活動法人

ふくてっく

559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC・ITM棟 11F エイブルスL  
TEL 06-6614-6800  
mail@fukutech.sakura.ne.jp http://fukutech.sakura.ne.jp/

ふくてっく二十年をふり返り

平成二十五年は「悲願達成」を多く見ることができました。富士山世界文化遺産登録に始まり、「二〇二〇年 東京オリンピック・パラリンピック」開催が決定し、日本全国が大きく沸きました。多種多様に関わる方々にとって大きな目標ができた、これからの七年間は相当活気づく事でしょう。そして記憶に新しいところでプロ野球「東北楽天イーグルス」が創設九年目にして日本一となりました。「東北震災被災者の少しでも力になりたい」と二〇一一年から星野監督の指揮のもと、弱小球団だった楽天が「勇気と底力」でとうとう頂点に立ちました。

平成二十五年はふくてっくにとっても記念すべき年で、発足二十周年を迎えています。発足初期から主活動だった木工活動から住宅改修にまで着手することになった時代、NPO法人取得から公共的活動がメインになりつつある現在まで、活動を振り返る学習会を開催し、改めて二十年という長い年月と共に会員も歳をとったものだと感じています。これまでお世話になった

方々で連絡先がわかる方にはご挨拶も兼ねて、過去の活動資料や思い出話を提供頂ければと「ご協力お願い」葉書を郵送させて頂きました。来年六月の平成二十五年度が終わる頃には昔話と元気なお姿を拝見する機会を設けたいと企画中で、これまでの感謝と共に一緒に祝いできればうれしく思います。

この二十年という年月はふくてっくも変わり続けてきましたが社会も大きく変化し、高齢者施策では介護保険制度ができ、障がい者に対する施策も幾度となく見直されています。生活環境形態も変わってきており地域で担うべき役割が大きくなり、ふくてっくがこれから注視すべき方向性が明確になってきています。そういう環境変化をふくてっくも敏感に感じとり、部会を編成しつつ社会にとって有意義な活動を続けていきたいと思えます。

そんな部会も最多時は六部会を有し、多岐に亘って活動していた時期もありましたが、現在は三部会で活動しています。事業性があり、社会貢献性も兼ね備え

た活動がふくてっく会員のモチベーションを高く保てる要因となっている事は明らかです。「東大阪部会」「こむねつと事業部会」は専門性が必要な活動であり、会員みんなが活動を支えるという形はとれませんが、それが特色であり他団体との差別化がしっかりと出来ており、ふくてっくの強みであると考えています。

もう一つの部会は最近できた「ふくてっくのつどい」です。事業性はあまりなく、社会の変化からか活動もままならず、方向性を見失いかけている活動に対して、これまでを振り返る良い期

間という事からも「本来目指していたもの」を再確認し「原点回帰」という形で復活を目指したいと思えます。新たな試みも視野に会員みんなが参加出来る活動元気になれる活動を創出できればと思います。

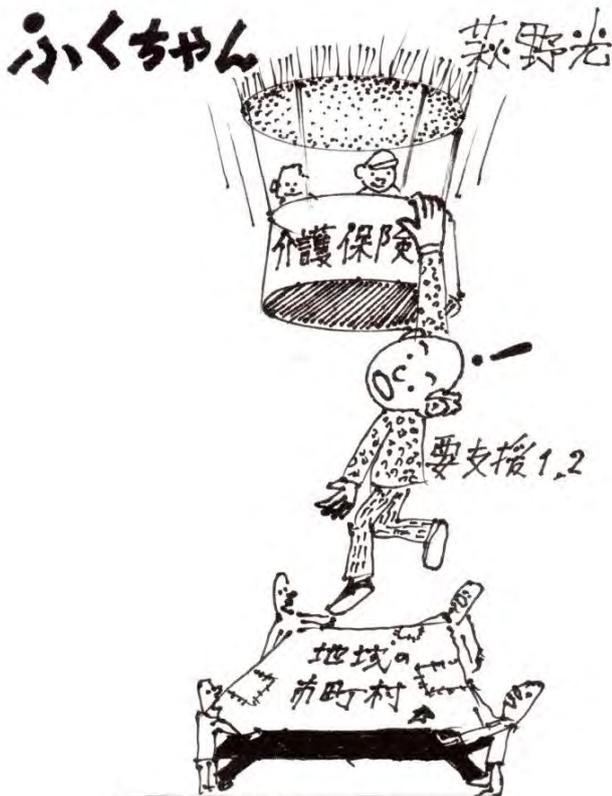
この三部会の活動バランスの共存ができる事で、この後のふくてっくの成長、これからの十年が充実したものとなる事を信じて務めていきたいと思えます。そして地域、社会に向けての貢献など立派な対外的活動と同等に大切な事として、高齢化が進むふくてっく会員のやりがい、楽しみも創出していく時期に入っ

てきた事を感じています。居場所を作り、目標や役割をもって今後も元気に活動に参加していただきたいと願っています。

平成二十五年に限っては昔を振り返って懐かしむ事も良いですが、今後は二十年活動を持続してきた自信と誇りを持って継続しなければなりません。そして最後に、失ってはいけない日本の良き思考である

「お・も・て・な・し」の心を大切にこれからも活動して参りますのでよろしくお願ひします。

理事長 小川 忠雄



介護手防、介護保険から外されるか？

# 阪南病院 見学会

九月二十日、有馬会員が以前に看護師として勤めておられた、堺市にある阪南病院を見学させていただきました。

精神科の総合病院を目指している阪南病院は、民間精神科病院としては日本で初めて「児童精神科専門病棟」を開設したことで注目されています。



外観

JR阪和線津久野駅から送迎バスで到着した私達はまず病院理事であり法人事務局長兼管理室長の小野寺さんから阪南病院の概要について説明を受けました。広汎性発達障害、強迫性障害など子ども達の心の問題に対して治療施設が不足しているという現状を踏まえ、二〇一一年五月に児童精神科の専門病棟がオープン。

説明を聞いた後は看護師長の藤好さん、総務課長の小田さんに説明を受けながら、病院内を案内していただきました。児童精神科の専門病棟には羽曳野支援学校の分教室があり、入院している子ども達の学習の様子が伺えました。その後精神科救急病棟に移動し、病棟の内部から屋上庭園、体育館と順に見学。体育館では壁面一面に鏡が貼られていて、鏡状のフィルム

新設の専門病棟には、「アート・イン・ホスピタル」という手法が取り入れられています。「アート・イン・ホスピタル」とは、「病院は人間にとつて最も美しくやさしい場所であらねばならない」というユネスコが立ち上げた理念の下で、国際的に取り組みが行われているプロジェクトで、阪南病院ではその第一人者であるアナグリウス・ケイ子さんの提案に沿って、「閉鎖的で怖い場所」だった病棟を「日常的な空間」に近付けるための様々なアートが随所にちりばめられています。

最後に、図書室と病院職員のための保育所を見せていただき見学を終えました。図書室は、ゆくゆくは図書館として、地域に開放できるものにしていきたいというのが理事長の夢だそうです。非常に貴重な見学会だったと思います。ありがとうございました。 山本 尚子

それから庭園療法が行われる北側の庭園へ。あずまや的に調理室も建てられており、庭園で栽培したハーブを使って料理をするのも療法の一環だそうです。診察室にも案内していただきました。病気の治療には「精神」と「身体」の両方のケアが必要であるにも関わらず、両方診ることのできる病院は少ないとのこと。阪南病院では両方診ます、ということ、医療機器の一部も見せていただきました。



ニッチ



廊下にあるソファ、ユニバーサルデザイン！？



扉のガラスに描かれたイラスト



光庭



壁面に描かれたイラスト

### 参加者の思い

私は定年まで十三年間お世話になった病院です。当時私が入社したときは豊中の「さわ病院」を目標に頑張っていました。現在では診療科目・専門外来・医師数四十五名と増え大きく成長し、私としては喜びにたえません。

有馬

昔の精神病院とは違う開かれた病院で、睡眠障害の治療も行われており、私はそちらの病棟も興味がありました。今回は児童精神病棟を重点的に見学させていただきました。驚きと発見があり、有意義な見学会であったと思います。

磯田

患者さんが病院での理想的な生活と退院後の実生活との差を埋めるには、家族等周囲の人達の理解と支援が必要です。退院後の生活を整える為には病院と福祉の連携等患者と支援する人達を支える仕組みが必要だと思ふ。

鎌田

六九〇床に対してほぼ同数のスタッフにより医療を行い、入院して三ヶ月以内に半数以上が退院し、ほぼ一年以内に全て退院すると聞き驚いた。新棟は、旧棟との間に中庭をとり明るく開放的で、体育館や傾斜の庭園等もあり、最先端の精神科病院を見学でき感謝致します。

川北



ミニトラックのある屋上庭園

完全に整備された施設と雰囲気。柔らかさは感心させられ、庭園・園芸療法の見事さにも心を打たれました。廊下やトイレその他に色々なアイデアに満ちたデザインの色が書き込まれ、ほんわかした癒しの気分させられました。

阪田

児童精神病棟の壁に貼ってある言葉に共感し立ち止まりました。そこには、「落ち着くステップの五か条」と「問題解決のステップの五か条」が解りやすく簡単に書かれていました。難しい事は、出来ませんが先ずは、その「五か条」を伝える事が支援活動になると思っております。

島村



2013/09/20

集合写真



中庭  
廊下



庭園

普通の事を普通にできる入院環境を提供したいとの思いから、色彩やサイン等についても計画され、ハード面だけでなくソフト面も整備されていました。建物内だけでなく庭園も含め心地よい雰囲気でした。

清水

精神病院と聞いて少し身構えていましたが、さりげないアナグリウス氏のアートを探しているうちに心が落ち着くのを感じました。いろいろと心の悩みは絶えることがない昨今。このような施設づくりが大切なことを知りました。

曾我部

言葉が同年の子ども達に比べると遅く、物事に集中することが苦手で〇〇症候群の可能性が有る子ども達は増えているかと思えます。親子で引き籠らず受け入れてもらえ、子ども達の受け皿・環境づくりを親身に考えられた事が伝わってきました。

寺岡

精神疾患の患者さんを対象とする病院として、細かい気遣いが空間としていろいろ見られる。廊下・待合などに控え目で、やさしいアートが飾られ、見学者でさえ楽しくなる。

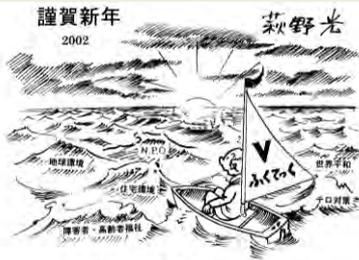
樋口

充実したスタッフで日常と変わらない又それ以上の入院環境（アートホスピタル、庭園療法、図書館、文教室他）で治療を行い、子どもたちの心を支えていることに非常に感心しました。何事も現場をよく見て、理解することが大事で、大勢の人にも知ってもらうことも大事であると思えました。

松本



国際ボランティア年「舞い上がり、天までとどけ！」



ボランティアの夜明け 天気が晴れれば夜明け



さて、この物語の結末は……？

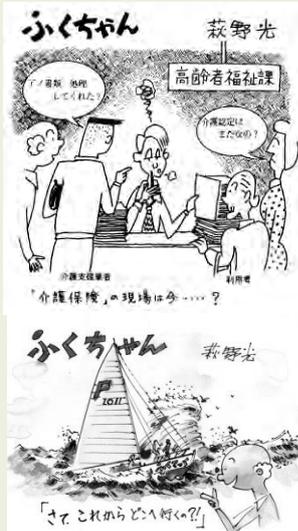


やぶづくしのふくてっく



NPO法人ふくてっくの鳥たち

**ふくてっく発足20年の足跡**  
「ふくちゃん」も世相を反映していました。



介護認定？



介護予防「筋力トレーニング」(時に異土への近道)



10周年記念



「障害者自立支援法」



どうなる「障害者自立支援法」 一つの不安、不透明、不透明



「大阪住まいコムネット」始動開始！



障害者自立支援法廃案？ どうなるの？！

## 東大阪部会

## 尼崎市調査日のできごと

昨年度より尼崎市で『尼崎市介護保険住宅改修支援活動』と位置づけて、介護保険住宅改修適正化に向けての取り組みに関わって活動を続けています。

今年度も、介護支援専門員や工事に携わる施工業者の資質向上を図ることを目的とした集団座学の研修会と、南北ブロック毎の介護支援専門員対象の勉強会を尼崎市が主催し、講師を当会が務めることになりました。



尼崎市や制度利用者、関係者の現状の課題を発見すべく、10月29・30日に申請書類等の実態調査を延べ8人で実施しました。

調査の当日、尼崎市では防災避難訓練が計画されていて、私たちの部屋とは違う市庁舎の8階・5階から避難設備を使った脱出劇に遭遇することになりました。

(幹事 清水 麗子)



## こむねっと事業部会

## 岸和田野菜工場見学会

11月15日(金)に(株)ヒューマンアグリ岸和田野菜工場(社福・ヒューマンライツ福祉協会の事業法人/就労継続支援A型事業)の見学を『こむねっと事業部会』で実施しました。平日でもあり、当会からの参加者は中北・清水・曾我部の3人でしたが、ヒューマンライツ福祉協会の孫さん・NPO法人釜ヶ崎支援機構・自立支援センターぱあとなどの方々と一緒に伺いました。

朝から雨です。「雨降って地固まる」といいますが、さてさて今日の見学会はどうなるのでしょうか?2012年5月に開園した農園ですが、ヒューマンライツ福祉協会が取り組んだ主な理由は、農業の持つリズムが障がい者に適していること、また育てることはやりがいや働きがいを実感しやすいこと、どんな障がいの人もかかわることができ、そして食は生きて行くことに欠かせないこと・・・など。またなぜ水耕栽培かというと、天候の影響が少なく、鍬等の農具を使うことがなく「はさみ」だけで農作業ができ、年間を通して栽培が可能なことなどが、障がい者の雇用促進に適していたそうです。



作業には、指導者3名、知的障がい者10名、精神障がい者4名、身体障がい者2名で従事しています。若干人手不足なので、岸和田にある作業所やニートの人達が集う「わかもの塾」にも声をかけています。

作業は、播種⇒育苗⇒定植⇒収穫⇒出荷作業⇒出荷という流れですが、このうち、播種と定植、出荷作業を作業員が行います。よい野菜作りは苗づくりが肝心ですが、こちらでは育苗をコンピューターで管理したコンテナの中で行い、発芽率もよく、強い苗を育てているとのこと。播種から約1カ月で出荷できるそうです。

障がい者雇用のむずかしさは、作業内容を教えることに時間がかかり、作業効率も劣ることですが、就労支援A型ゆえに最低賃金は支払わなければなりません。作業効率が悪いからと作業員を増やすことは経営を圧迫します。ヒューマンアグリの中井氏は、障がいをきちんと理解し、教えることで十分戦力になる!と熱く語られました。最大の課題は販路とのこと。大手スーパー等は量をほしがるのが対応できず、地元の農家との軋轢もあります・・・。まだまだこれから販路を探さなくてはならない状況です。

お話しをお聞きした後、農園内を案内していただきました。ビニールハウスの中は、年間を通して室温19~22℃にコンピューター制御され、苗のものから出荷直前の野菜まで育てられていました。播種が一日違うだけなのに、野菜の大きさが違い、当たり前のことなのになぜか感動!やさしい緑色に囲まれとてもほっとする眺めでした。

帰りに、道の駅「愛彩ランド」でお昼ご飯。泉州野菜を堪能した後、お買い物!ヒューマンアグリサラダほうれん草とみかんを買って、見学会は無事終了しました。

(曾我部 千鶴美)

# 木工教室



無料です  
NPO法人  
ふくてっく

第三十三回

## 池島 ふれあいまつり

十一月二十三日（祝）恒例の「池島ふれあいまつり」に「こども木工教室」で参加しました。

今年も途中参加、飛入り参加も含め総勢十一名の会員と材料搬入に三社の協力を



得ての活動となりました。

例年この日は天候が悪く今回も寒い中での活動となることが予測され、少し厚着の準備をしていたのですが、今年は気温も高く動いていると少し汗ばむ程の晴天の中での木工教室となりました。

今年は今までの木工教室の進行内容を見直し、「ふれあいまつり」開催時間を五回に区切って、システムの導入で進行することを試みたのですが、十時スタートの一回目を除いて見事に機能しませんでした。個々人の木工作业時間の違いと参加希望者の「波」を吸収するには、このシステムでは不可能だと言ったことがはつきり判り今後の改善検討項目となりました。

一方、工具を一セットに一括して貸し出す方法も試みましたが、こちらは入場制限に効果をもたらす結果となりました。しかし本来の目的は工具への興味心を抱かすことでした。日頃使わない道具を目にして触り、準備した「のこぎり」「かなづち」は勿論ですが「キリ」や「ペンチ」、「紙やすり」を使う事もあり、初めて使う工具に興奮する子ども達も多く、ある程

度の目標に近づけたのではないかと思います。また途中、工具が行方不明なるなどバタバタしましたが、工具の返却についてもある程度のシステム化への道筋は出来たのではないかと思います。木工材料に関して今回もふくてっく会員である三社による協力で賄う事にチャレンジしましたが大変上質な材料を提供頂き、多くの自由作品が充実した物となりました。

高学年の子ども達や親御さんは椅子や植木台など大きな作品を手掛け、低学年や就学前の小さいお子さんは、サンプル作品の影響からか電車（新幹線）を製作する子ども達が多く、サンプルの威力は絶大だと感じました。毎年活動していると地域の方々の期待が大きいの事を感じます。今年も「いつもここで作ってるねん」

「今年は何を作ろうかな？」と参加する子ども達の眼、親御さんはお子さんに「道具の使い方教えてください」"自分ではつきり作

「どのように作るか考えて相談しなさい。」子ども達にとっては単なる木工教室以上に大人との接点、接触を持つというこの活動が担っている部分が大いに気付かされます。作品が出来た達成感と喜ぶ笑顔を見て、そして「ありがとう！」の声を聞くと疲れや忙しさも随分と軽減されます。

最後に今回の活動も例年通り子ども達も途切れる事無くバタバタし大忙しでしたが、活動終了後の反省会と共に喉を潤す「ビール」の味は本当に格別なものとなり「やっぱり活動後のこれが一番やな！」と疲れが吹き飛び「また来年もしましょう！」と声を掛け合いました。

(小川 忠雄)



# ～やまとぢから～

寺岡 春恵

この秋の野球は、秋の悪天を晴らしてくれるような話題が  
ちらほら。創設わずか9年目の楽天が歴史ある巨人を倒し、  
アメリカでは、日本人、上原浩治が大活躍。アメリカに渡っ  
て怪我などに苦しめられながらも努力し苦勞し今年の様な  
結果が出た！などという話を聞くとやっぱ凄い・・・上原凄  
い。日本人って凄いのだ～などと改めて思うと嬉しくなっ  
てくるのは私だけでしょうか？

その様な中、今、奈良県立美術で開催されている「藪内佐  
斗司展 やまとぢから」を子どもと見に行ってきました。奈  
良のキャラクター「せんとかん」をつくった方です。

奈良は8世紀ごろ、「やまとの国」とよばれていました。  
そして、「やまと」とは、日本全体をさす言葉でもあります。  
藪内佐斗司さんは、日本の人々に昔から伝えられてきた知恵  
や生きる力のみなもとを「やまとぢから」と名付けたそう  
です。そして、目に見えない自然のエネルギーを「童子」とい  
う姿であらわしたそうです。いたずら好きな童子が、私たち  
のまわりにもいて元気をあたえてくれる。

展示会では、目をクリクリさせたその童子が動き回って  
いるような展示でした。童子たちの表情は、どれも愛らしくそ  
して元気はつらつな様子で その中に、まだまだこれからだ  
ぞ～というような底知れぬエネルギーが伝わってきました。  
童子たちは、木の彫刻で作られており、その彫刻からの力強  
さもあり更にパワーを感じたのです。

「やまとぢから」のエネルギー！そして、日本人のパワー！  
今年の秋、あらためて「やまと人」「日本人」であることの  
喜びを感じ、気持ちさがポジティブになり、来る寒～い冬を元  
気はつらつに過ごしていこう・・・

そんな思いにさせてくれた  
「藪内佐斗司展 やまとぢから」  
そして「上原浩治」でした。



# 会員コラム

## 大阪マラソンに参加して

大塚 裕司

10月27日に念願の大阪マラソンに参加しました。小川氏が  
言い出しっぺですが何故か私が当選、覚悟も無いままの参加で  
した。

6月に当選発表があつて、本格的な練習はそれからですが、  
季節はご存じの様に灼熱の夏に突入直前で、あまりの暑さに練  
習もままならず焦りだけが募りました。

9月に入って暑さも一段落し、練習を再開しましたが、本番  
まで2ヶ月。ますます焦りが募り、本番前日は楽観的な私でも  
なかなか眠りに付けませんでした。

練習で20km以上を何度か走っていましたが、当日は一緒  
に走っている人が沢山居たのと、コースの風景や沿道の応援を  
見ていると、一人で走っているときよりは楽にそして時間も早  
く過ぎた様に感じました。自分では、30kmまでは走っていよ  
うと決めていましたが、何とか33km地点まで走れました。  
がその後は、ふくらはぎから股まで下半身全体が痛み出し、走  
り続けることが困難になってしまい、ゴールまでは歩いたり走  
ったりしていました。それでも、5時間30分程かけてゴール  
出来ました。ゴール後は足が別物みたいでしたが、達成感はい  
とおです。こんな根性無しでも出来るのだと自信になりました。

今回参加して感じたことは、ゴール出来たのは私一人のチカ  
ラでは無いと言うコトです。スタート前に激励に来て下さった  
小川氏、沿道での沢山のみなさん、一万人と報道で言っていたボラン  
ティアの方々、ネットで応援メッセージを送ってくれていた友  
人知人の方々、etc。。それら沢  
山の方々による応援が、時には挫け  
そうになる私の背中を押してくれ  
ていました。声の届かない方もい  
らっしゃいますが、この場をお借  
りして、お礼申し上げます。コレ  
に懲りず、機会があれば色々な  
RUN イベントに参加してみたいと思  
っています。



皆さんもご一緒に如何ですか？  
楽しいですよ～～。

### 「あなのお客様との会話」

税理士 秋岡 安



客：一般社団法人の設立が流行ってい  
るの？

私：そうみたいですね。NPO法人（以下Nとい  
う）か一般社団（以下Sという）かどちらで設立する  
のがよいか、先日もある人から聞かれました。

客：NとSはどう違うの？

私：まず、Nは公益を目的とした法人ですが、Sは必  
ずしも公益を目的とした法人とは限りません。

客：設立の手続きの違いは？

私：Nは認可主義（法律に定める要件を備えてい  
れば、行政は必ず認可を与えなければならない）で設立  
でき、Sは株式会社と同様に準則主義（法律に定  
める要件を備えていれば、一定の手続きを踏めば  
行政庁の判断なく法人となれる）で設立できま  
す。

客：Sだと事前に所轄庁で相談する事や認証されるの  
に四ヶ月も待つ必要がないんだ。

私：そうです。定款を作成し、公証人役場で定款認証  
してもらい、登記をしたら設立できます。

しかし、登録免許税（印紙代）は、Nはかかりま  
せんが、Sはかかります。

客：他の違いは？

私：社員数（従業員のことでなく、株式会社という  
株主のこと）は、Nは十名以上、Sは二名以上必  
要です。役員は、Nは理事三名以上監事一名以上  
必要ですが、Sは理事一名以上監事なしでOKで  
す。

客：なるほど。法人税はどうなの？

私：Sには二つの形態があります。非営利性型とそう  
ではない型の二つです。非営利型の場合はNと同  
じで収益事業を営んでいる場合に法人税がかか  
ります（収益事業課税）。そうではない型の場合  
は株式会社と同じく全ての所得に課税されます  
（全所得課税）。

■ H25 年 6 月以降 学習会

- 7 月 「東日本大震災から学ぶ  
障がい者市民の防災」  
講師：八幡 隆司  
特定非営利活動法人 ゆめ風基金理事
- 8 月 新曲「生きてていいんだ」 砂川恵理歌  
講師：佐久川 尚士  
NPO 法人 ふくてっく会員
- 9 月 「ふくてっく発足 20 年のあしあと 1」  
講師：検討委員会 佐久川 尚士  
NPO 法人 ふくてっく会員
- 10 月 「ふくてっく発足 20 年のあしあと 2」  
講師：検討委員会 清水 麗子  
NPO 法人 ふくてっく会員
- 11 月 「ふくてっく発足 20 年のあしあと 3」  
講師：検討委員会 小川 忠雄  
NPO 法人 ふくてっく会員
- 12 月 「ドキュメント作成の技術」  
講師：中北 清  
NPO 法人 ふくてっく会員

■ H25 年度 定例会・学習会予定

- 1 月 11 日 (土) 13:30~17:00 頃  
会 場：弁天町市民学習センター  
親睦会
- 2 月 1 日 (土) 13:30~17:00 頃  
会 場：大阪市立社会福祉センター  
学習会：「(仮) 平均 27.6 歳の集団/  
NPO み・らいずの想いと活動」  
講 師：梶谷 礼路 NPO み・らいず理事

ことば・コトバ

【デフリンピック】

4 年に 1 度、世界規模で行われる聴覚障がい者のための総合スポーツ大会。

聴覚障がい者自身が運営し、参加者は国際手話によるコミュニケーションで親睦を深められます。競技中に補聴器を装用することは禁止されており、これは身体の安全を確保する観点によるものです。

パラリンピックへ聴覚障がい者は参加できません。

和泉秀子

◆ 外部連携 ◆

◆九月、大阪保健医療大学作業療法学専攻の研究室がおこなっているカンボジアの子どもたちへの支援活動に協力して、会員に呼び掛け「日本語辞書」「子ども服」「靴」「サッカー用品」等を集めました。

◆十月二十三日 第八回コンボネットミニ交流会に、小川理事長が参加しました。

◆十一月二十三日「東北⇩関西ポジティブ生活文化交流祭」が長居公園で開催され、中部障害者解放センターが、岡会員の「すべらんうどん」「ドーナツお好み」を出店されました。



◆十一月三十日 奈良県手をつなぐ育成会十周年記念式典が開催されました。

…事務局より…

★ 理事会・運営会議 開催状況

・平成二十五年八月三日 総会

・平成二十五年七月十三日 理事会

・平成二十五年八月三日 理事会

・平成二十五年九月七日 理事会

・平成二十五年七月十三日 運営会議

・平成二十五年九月七日 運営会議

★ ふくてっく発足二十年お知らせの葉書を十月末に発送しました。

NPO 法人ふくてっくとは・・・

ふくてっくには、建築・医療・福祉分野の有資格その他、多岐に亘る専門職が参加しており、お互いの専門領域における見識と誇りを大切にしつつ、相互の研鑽しあう機会を育てています。キーワードは「生活者の視点、当たり前感覚です。」是非あなたも仲間に入って、自らの人生を耕しませんか。一度、定例会（原則：毎月第 1 土曜日、13:30～）にご参加ください。定例会では、会員の活動報告や講師を招いての学習会等を行っています。正会員以外の方が定例会に参加される場合は、参加費 500 円です。

\*会費：入会金/無料

：年会費/正会員 10,000 円、学生会員 3,000 円、通信会員 500 円

\*連絡先：TEL 06-6614-6800

ホームページ <http://fukutech.sakura.ne.jp/>

メールアドレス [mail@fukutech.sakura.ne.jp](mailto:mail@fukutech.sakura.ne.jp)

